

令和6年度第2回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 令和6年度第2回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和6年5月23日（木） 午後2時から午後3時まで
- 3 開催場所 一関市役所 大会議室A
- 4 出席者
 - (1) 委員 阿部利彦委員、泉賢司委員、伊藤拓也委員、宇津野泉委員、及川恵理子委員、大内早智子委員、加藤沙央里委員、小岩邦弘委員、西條恵美子委員、齊藤裕美委員、佐々木承子委員、佐藤弘子委員、菅原秀文委員、東海林訓委員、菅原美津代委員、千葉真美子委員、徳谷喜久子委員、藤本千二委員、船山賢治委員、星義弘委員、吉田捺委員、吉田正弘委員
 - ※欠席者 小野寺忍委員、小山亜希子委員、千田久美子委員、千田好記委員
 - (2) 事務局 今野薫市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、小山隆之政策企画課長補佐兼政策推進係長、佐々木さやか政策企画課主任主査、渡辺苑子政策企画課主任主事、谷藤義拓政策企画課主任主事
 - (3) 一関市総合計画策定支援業務受託者 株式会社邑計画事務所 及川一輝取締役
- 5 内 容
 - (1) 情報提供
自立持続可能性自治体等について
 - (2) 議題
 - ア 市民ワークショップについて
 - イ アンケート調査項目について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 1人
- 8 小岩会長挨拶
アンケートとワークショップの協議は本日が最後となる。
今後はアンケート発送の準備とワークショップの実施に向けて準備を行っていくこととなるので、活発な議論をお願いしたい。
- 9 審議内容
 - (1) 情報提供 自立持続可能性自治体等について
事務局から参考資料No.2に基づき説明を行った。質疑等なし。

(2) 市民ワークショップについて

事務局から資料No.1に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

会 長 最初に、ワークショップに審議会委員の6人がオブザーバーとして参加するという点に関して、賛同することとしてよろしいか。

(委員から賛同の声あり)

委 員 高校生、高専生の参加に関して、男性と女性では意見が変わると思うが、男女の配分はどのように考えているか。

事務局 学校に依頼する際には、男女の割合を指定する予定はない。

学校の判断でバランスは考えていただきたいと考えている。

委 員 性別は問わないというのが今の主流な考え方ではあるが、現実的には男女は別であり、考え方も異なると思う。

男性か女性、どちらかしかないというような極端な状況は好ましくないの
で、ある程度目安があったほうが良い。

会 長 10年前のワークショップにおける高校生参加者は、女性のほうが多かった。

何回かワークショップを実施したが、女性のほうが多く集まっている傾向がある。

性別を指定せずに、高校に依頼したいと思うがいかがか。

(委員から賛同の声あり)

委 員 開催場所が一関会場と千厩会場となっているが、参加者を地域別に分けるという考え方か。

事務局 基本的には、西磐井地域の方は一関会場に、東磐井地域の方は千厩会場に参加していただきたいと考えている。

また、高校生の参加者についても、千厩会場には千厩高校と大東高校、一関会場にはそれ以外の高校に参加依頼をする予定である。

委 員 各グループにオブザーバーとして審議会委員が1人入るとのことだが、1人だと心細い気持ちもある。

会 長 各グループにはファシリテーターがおり、オブザーバーは助言者という立ち位置のため心配しなくても大丈夫だと思う。

委 員 オブザーバーの本来の意味は傍観者であるが、発言してはいけないのか。

事務局 話してはいけないという意味ではなく、参加者と同じ立場で意見を言う立場ではないという意味である。

委 員 さじ加減が難しい。様々な意見が出たときに、自分の意見を言ってしまう気がする。

邑計画事務所 参加いただいた方々で意見をまとめていくのがワークショップの場だと認識しているので、オブザーバーの役割としては助言や客観的な意見を期待したい。

委員の皆さんは、審議会など、ワークショップ以外でも発言できる機会があると思う。

会 長 高校生と高専生でグループを作り、ファシリテーターを高専生にお願いするということだが、事前の打合せは行うのか。

事務局 ファシリテーターを依頼する場合、打合せを実施予定である。

別日で設けるか、当日に早く集合して行うかは今後検討する。

会 長 ワークショップを多数経験してみて、いきなりファシリテーターを行うのは難しいと感じている。

経験がないと自分の主張だけを言うファシリテーターになってしまう。

発言を誘導するような捌き方が必要なので、難しいのではないか。

事務局 高専生にファシリテーターを依頼することとした経緯は、先日開催した、一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議において、委員である高専の先生から、高専生はまちづくりの場に慣れているので、今回のワークショップでも何か協力ができると思うという意見をいただいたところである。

今後は、ワークショップをどのような形で進めていくのかをお伝えした上で、高専に相談していきたい。

会 長 高専生がまちづくりに関して一生懸命やっていたているのはそのとおりなので、ファシリテーターではなく、発言者として参加していただきたいと考える。

委 員 開催は一日か。6人のオブザーバーがどちらの会場にも参加するということか。

事務局 6人の方に一関会場にも千厩会場にも出席いただきたいと考えているが、委員の皆さんの意見を伺いながら決めたい。

委 員 内容について、テーマが設けられているが、テーマ以外の話はしてはいけない決まりとするのか。流れの中で様々な話題に繋がっていく可能性がある。

邑計画事務所 今回示された大きなテーマを踏まえて、今後より具体的にワークショップの設計をしていきたい。

ワークショップの基本的な原則として、出された意見を遮ることはしないので、様々な意見が出たとしても一度は受け止めるが、流れが大きく逸れていくようであれば、テーマに戻す役割を担うのがファシリテーターである。

会 長 ワークショップの中で一度、高校生、高専生が一般参加者と分かれるのであれば、その後の全体共有が必要となる。

事務局 当日の流れについても、今後邑計画事務所と検討を進めたい。

会 長 オブザーバーとして参加していただける方を募りたいと思うが、まずは、一関会場と千厩会場それぞれ6人ずつ選ぶか、両会場に参加する6人を選ぶかについて意見をいただきたい。

委 員 会場ごとに別の人を選んだほうが良いと思う。

委 員 多くの方が携わったほうが良いと思う。

委 員 オブザーバー以外の審議会委員が傍聴することは可能か。

事務局 可能である。

委 員 ワークショップのプロジェクトメンバーは、アンケートのプロジェクトメンバーと同じ人となるのか。

事務局 同じ人が兼ねたほうが良いか、または別の人としたほうが良いか、委員の皆さんの意見を伺いたい。

会 長 どちらにも立候補するのは拒まないが、アンケートのプロジェクトメンバーとワークショップのプロジェクトメンバーは分けるという方向で進めたいがいかがか。

(委員から賛同の声あり)

会 長 ワークショップのプロジェクトメンバーについても、一関会場、千厩会場のどちらにも立候補することは可能という前提で、それぞれ選任することとしてよろしいか。

(委員から賛同の声あり)

会 長 選任方法については、立候補を優先したいと思うがいかがか。

委 員 日程は決まっているのか。日程が決まっていなくて立候補するか判断ができない。

会 長 日程は決まっていないうるので、決まり時点、意向調査を行う。

定員に満たない場合は、会長、副会長、事務局に一任していただくこととしてよろしいか。

(委員から賛同の声あり)

委 員 会長、副会長、事務局に一任ということだが、仕事の都合などで参加ができない場合は拒否しても構わないか。

事務局 断っていただいて構わない。

委 員 委員の皆さんの経歴を拝見すると、所属団体や地域が様々なので、2つの会

場によく振り分けていただきたい。

(4) アンケート調査項目について

事務局から資料No.2～8、参考資料No.1に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 わかりやすくまとまったのが見て取れる。

何点か確認であるが、1点目は市民アンケートの問8にRPAという言葉の記載があるが意味がわからないので、説明を書いていたきたい。

2点目は、市民アンケートの問25の回答の記載方法がわかりにくいので、もう少しシンプルにしたほうが、混乱なく書けると思う。

3点目は、結婚・出産・就労に関するアンケートについて、結婚したくない方の意見も聞きたいので、差し支えなければ、自由記述などで結婚についての関心を把握してほしい。

4点目は、結婚・出産・就労に関するアンケートの9ページ目以降に「支障になる」という言葉が使われているが、「不安になる」などの表現にしたほうが良いと思う。

5点目は、転入者アンケートで以前住んでいた市区町村と一関市の生活環境の満足度を聞いているが、選択肢に収入に関するものを加えてはどうか。

委員 子育てに関するアンケート調査で、子育てにどのくらいのお金がかかるのかを聞く項目があっても良かったと思う。

様々な場面でお金がかかるわけだが、実際にいつお金が必要なのか、それをどのように確保するのかということ聞いたほうが良いのではないか。

自治体としてどこまで支援できるかわからないが、聞いてみることで案が出てくるかもしれない。

事務局 今回、参考資料として配布した子育てに関するアンケートは、一関市こども計画を策定するにあたり、こども家庭課が作成したものであり、発送に向けた最終段階に入っているため、修正は難しいと思われる。

また、今回配布したアンケートのほかにも、子どもの生活に関する実態調査を実施予定とのことであり、「お金が足りなくて困ったことがありますか」といったような経済状況を聞く質問も含まれている。

委員 企業アンケートで、働きやすい職場環境の実現のために取り組んでいることを聞いているが、選択肢に体調管理に関すること、特にメンタルヘルスに関するものを加えてはどうか。

メンタルヘルス対策を導入している企業は増えてきており、大変重要なことだと思うので、取り組んでいる企業がどのくらいいるのか把握したい。

委員 市民アンケートの中心市街地の活性化に関する間で「中心市街地の商店街は一ノ関駅西口商店街のことをいいます」と説明があり、その後に中心市街地の商店街または各地域の商店街について聞いているが、中心市街地の商店街と各地域の商店街のことは分けて聞いたほうが良いのではないかと。

事務局 記載の方法を再度検討する。

委員 アンケート調査票の表紙に、回答方法の記載があるが、オンラインフォームが基本であるように捉えてしまう。

年齢層が高い方は、オンラインでとなると回答に進まない可能性もあるので、記載方法を工夫していただきたい。

事務局 調査票の表紙は、内容を検討中であるので、いただいたご意見を踏まえて、対応していきたい。

事務局 これまでいただいたご意見に対して、いくつか回答させていただく。

設問の中にわかりにくい言葉がある場合は、解説を加えたい。

RPAという言葉は古く、今はDXなどの別な言葉となっているので、その点も踏まえて修正したい。

また、「支障になる」という表現も適切な言葉に修正する。

委員 市民の皆さんの懐具合を把握する意味で、持ち家なのか、実家暮らしなのか、アパート暮らしなのかなどの質問も個人的には聞いてみたいと思う。

事務局 前回の審議会で、所得についての設問が多いという意見があり、今回はその点を配慮した形で修正を行ったところである。

今いただいた意見については検討させていただく。

委員 市民アンケートの間25、現在の総合計画の評価を伺う設問で、選択肢に「道路」とあるがわかりにくいと思う。

事務局 総合計画の記載と合わせているが、答える方に伝わるかどうかという視点で修正を検討したい。

委員 転出者アンケート問6の選択肢に「0年から20年未満」とあるが「10年から20年未満」が正しいのではないかと。

事務局 そのとおりなので修正する。

委員 一関市の総合計画を知っているかという質問があっても良いのではないかと。意外と知らない方が多いと思う。

委員 市民アンケートの間25について、質問の順番と回答の順番が異なり答えにくいので工夫していただきたい。

委員 それぞれ家に帰ってからもう一度回答してみると、回答しにくいところがわ

かと思う。

会 長 スケジュール上、可能か。

事務局 1週間程度であれば、時間を確保できる。

今回は、会議後の質問を受け付けるオンラインフォームは用意していないので、5月27日までにメールやFAXなどでご意見をいただきたい。

委 員 このようなアンケートを実施する機会はあまりないので、人口減少の状況を踏まえて、人が減っていく地域でも今住んでいる場所に住み続けたいと思っているのかを聞いてみるのはいかがか。

事務局 アンケートを実施すれば当然、回答が出るわけであるが、その回答を総合計画にどう生かすのか、どう施策に展開していくのかという視点で考えていきたい。

本日、様々ご意見をいただいているが、そういった視点で反映できない部分もあると思うが、検討を進めたい。

委 員 調査票にはオンライン回答の二次元コードは記載されるのか。

事務局 すべての調査票の表紙に記載する。

委 員 アンケートの表紙に「該当するところの丸を塗りつぶしてください」とあるが、今の調査票は数字に丸をつける形となっている。

事務局 マークシート方式を想定した記載であるが、今回のアンケートをどのような方式にするかは邑計画事務所と検討する。

委 員 市民アンケートの間15の情報環境に関する間について、市としてこれほど多様な発信ツールがあるということに感心した。

アンケート回答者に対するPRにも繋がると思う。

委 員 各アンケートの対象者は重複しないように選定するのか。

事務局 重複しないよう調整を行う。

委 員 市内地域間でも移動があり、今後は山の中に家が点在する地域が出てくると思う。

暮らしが成り立たなくなると、市内の中心部に移り住みたいと考える方も出てくるはずである。

コンパクトシティという考え方もあるが、まちづくりを進めていくうえで、どこに住んでもらうかという視点は、行政側にとって非常に重要であり、様々な事情や土地に根ざした文化もある中で簡単に言えることではないが、それぞれの地域をどのようにしていくかという意向もある程度把握しておいたほうが良いのではないか。

市がそのような調査を行うと、当然反発が出てくるとは思うが意見として申し上げておく。

委員 各年齢の人がどのくらい出産しているのかなどを、市ではどの程度把握しているのか。

事務局 15歳から49歳までの女性とその子どもの割合で出生率を算出しているので、何歳でお子さんを産んだのかといったデータは把握している。

委員 転入者アンケート、転出者アンケートで一関市の生活の満足度を聞いているが、回答の選択肢が「思う」「思わない」となっている。

「満足」「不満」といった選択肢が正しいのではないか。

事務局 そのように修正する。

委員 結婚・出産・就労に関するアンケートの問10、現在パートナーとはどのようなきっかけで知り合ったかという問であるが、書きたくない場合もあると思う。

会長 回答者の意思に任せるということで理解いただきたい。

10 担当課 市長公室政策企画課